

学校名の変遷

明治 6年 4月 11日	第八十一番小学戸塚学校
同 14年 12月	第五学区高等小学戸塚学校
同 19年 5月	第十六番学区尋常小学英育学校
同 22年 6月	戸塚村立英育学校
同 25年 8月	戸塚尋常小学校
大正 3年 3月	戸塚尋常高等小学校
昭和 16年 4月 1日	戸塚国民学校
同 22年 4月 1日	戸塚村立戸塚小学校
同 31年 4月 1日	美園村立戸塚小学校
同 37年 5月 1日	川口市立戸塚小学校

高橋吾平先生寿蔵之碑文（口語訳）

開校当時教室が狭く、高橋先生の宅に分教場を設けました。

古称す、民三に生ず。父これを生じ、師これを教え、君これを食う。師恩の君父における一なり。しかりしこうして生は往々師恩を忽略して顧みず。今いわゆる学生なる者はそれ少くして得有るに及ばんや。或いは、自ら門人と称し弟子その師を視ること路人の若くしかり。榮辱相関らず生死相知らず。孰れかまた旧恩を記せん。余高橋先生において師弟の道なお存するを見るなり。先生名は忠雄、字は父儔。通称は吾平。武蔵北足立郡戸塚村の人なり。考の諱は忠蔵、妣篠宮氏。世家の長蔵は新田にて農を業とす。先生幼くして学を好み、郷人の土屋栄次郎に学び、又南埼玉の松沢俊蔵、飯山義方に従い、和漢の学を修む。既に長じて江戸に遊び正に諸家に就く。還りて里正となり、傍ら子弟を聚めて教授す。明治中興先生なお村吏たり。官の地租の制を革むるに会うや、先生は奔走して力有り。又、私学を設けこれを教う。前後贄を執る者三百人なり。先生人となり、真挚にて撃剣を好み、又詩賦俳諧を喜む。齢已に六十有にして職を罷め、徒を謝し、日夕詩を賦し俳句を詠み、以て自ら娛しむ。然れども精力は衰えず、少壯の時のごとし。時に或いは撃剣し、以て自ら励む。その豊饒たること此のごとし。藤波氏を娶り、男虎之助に家を承がしむ。一女は長嶋嘉平に適き、内外の孫は六人なり。ことし戊戌門人胥議り、寿蔵を村祠の傍に設け以て先生の徳を頌えんと欲す。价の高橋芳太郎余に文を請う。ああ通邑大都の碩学鴻儒育する子弟は何ぞ限りあらんや。しかれどもその情は日にますます疎し。郷校村塾には、すなわち忠厚此のごとき者あり。これをそれ相視ること路人の若き者に比せん。その軽重厚薄固より日を同して語る可からず也。銘に曰く。

生れて碑を樹つ。先生の徳なり。寿にしてよく健。先生の福なり。

福德かねて至るは古より難たり。いわんや不足なきおや。既に康、かつ安し。人情日に薄きも、すなわちここに腆を具う。何をもってこれを致せる。教誘ははなはだ善なればなり。

明治三十一年四月

埼玉県師範学校教諭中村忠誠撰

帝国第一議会衆議院天野三郎書

青木 宗次 鐫